



第171回 芥川賞・直木賞 前期決定!

第171回芥川賞・直木賞(日本文学振興会主催)の選考会が17日、東京築地の料亭「新喜楽」で開かれた。芥川賞は朝比奈秋さん(43)の「サンショウウオの四十九日」(「新潮」5月号)と松永K三蔵さん(44)の「バリ山行」(「群像」3月号)に、直木賞は一穂ミチさん(46)の「ツミデミック」(光文社)に、それぞれ決まった。

朝比奈秋著 『サンショウウオの四十九日』

主人公・杏と瞬は、一つの身体を分かち合って生まれた「結合双生児」の姉妹。2人の父が、その兄で伯父



一穂ミチ・松永K三蔵・朝比奈秋の「胎児内胎児」だったことに思いを巡らせた夜に、伯父の姉妹は身体や意識、生死の境界に思い悩む。

松永K三蔵著 『バリ山行』

主人公は転職2年の波多(はた)。同僚に誘われ、会社の登山部で六甲山登山を続ける。リストラなどの不安にさらされる中、先輩の妻鹿(めが)と難易度の高い登山「バリ山行」に挑戦する。

一穂ミチ著 「ツミデミック」

新型感染症のパンデミック(世界的大流行)によって人生を翻弄(ほんろう)された人々を描く短編集。繁華街で客引き中の主人公が中学時代に死んだはずの知人を名乗る女と出会う「違う羽の鳥」など6編を収める。



※芥川賞候補作 3作品

『転の声』 尾崎世界観著
『海岸通り』 坂崎かおる著
『いなくなくなならないで』 向坂くじら著

※直木賞候補作 4作品

『地雷グリコ』 青崎有吾著
『令和元年の人生ゲーム』
『われは熊楠』 岩井圭也著
『あいにくあんたのためじゃない』 柚木麻子著



『休むヒント。』 群像編集部編

休みなよ、って言われても。

- ・休日、何もしていないのに気づいたら夕方になっている。
- ・お休みなのに、つい仕事のメールをチェックしてしまう。
- ・折角の休みだからと、逆に予定を詰め込み過ぎてしまう。
- ・全然休めた気がしないまま、月曜の朝を迎えてしまう。
- ・「休みの日って何してるの?」と聞かれるのが怖い。

ひとつでも当てはまってしまったあなた、必読です!!
働き方改革時代、ワークライフ「アン」バランスなあなたに贈る、休み方の処方箋。覗いてみませんか? あの人たちの、休み方。

『ラッコのすべて』

貝を叩いたり、お腹の上でごはんを食べる姿がかわいいと評判のラッコ。そんなラッコのすべてがわかる一冊。ラッコは現在、日本国内で3頭のみ。飼育下のラッコが減っていく中、近年、北海道東部の霧多布岬では野生ラッコのファミリーの姿が目撃され、ラッコファンがこぞって訪れています。本書ではそんな「ラッコ」の魅力と秘密を可愛らしくたくさん写真と図版で解説します。

『5分後に不気味なラスト』

いったい、何者なのか? 得体の知れぬ恐怖を描いたホラー作品を集めた短編集。

『5分後に泣き笑いのラスト』

家族、友人など身近な人との温かな関係性を描いた珠玉の作品を集めた、ほろりと涙こぼれる感動の短篇集。



今年の夏はいかがが過ごしますか？



3年生は進学・就職に向け、充実した夏休みをじっくり、もう一度、自分のことを振り返り、将来について人生の一步を考えてみよう。

1・2年生は、勉強、部活、恋愛、旅行、バイト、etc.？

自分の道を切り開くための本を紹介しします。ぜひ、読んでみてください。

『君に伝えたい「本当にやりたいこと」のを見つけかた 池上彰監



将来の夢ややりたい職業など、本当にやりたいことを見つけるための考え方を教えます！自分の可能性を広げ、これからの未来を楽しく、豊かにするためのヒントが満載。楽しいイラスト図解でよくわかる！

『19歳までに手に入れる7つの武器』 樺沢紫苑著

十代にとっては人生というゲームの完全攻略本、

十代の子をもつ親には我が子の取扱説明書。人生の成功法則は、たったの3ステップ！装備を整え(整え)、仲間を集め(つながり)、冒険に出よう(行動する)。そのときときに必要な7つの武器を磨けば、「生きる力」は強化されます!!

『決定版日本の給料&職業 最強DXリニューアル版』



あらゆる職業をファンタジー風のイラストにし、ゲームのような世界観に落とし込んで紹介、平均給料、仕事の内容・就き方などリアルな情報も掲載しています。

『最高の職業と進路が見つかるガイドブック』

やりたいことがわからない高校生のための 最高の職業と進路が見つかるガイドブック。



『10代のきみに読んでほしい人生の教科書』 肘井学著

学校、勉強、恋愛、友達・親子関係、将来、夢のかなえ方など、33のヒントをまとめました。悩みを抱える10代、保護者、かつて10代だったすべての人に向けた、令和を豊かに生きるための道しるべとなる1冊です。

『プロの履歴書からわかる生きものの仕事』

生きものの仕事のなり方、プロの仕事人が教えます！



背筋ひんやり怖い本はいかが！

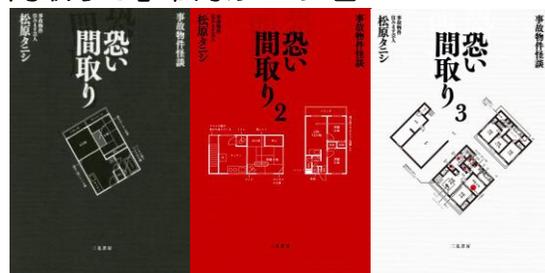


『怖い怪談』 松原タニシ著

2012年に事故物件に住みはじめてから、タニシさんのもとに不思議と集まってきた怪談を100話収録。すべて“実話”という読み応えたっぷりの一冊です

『怖い間取り・怖い間取り2・怖い間取り3』 松原タニシ著

事故物件とは、前の住人が自殺・殺人・孤独死・事故などで死んでいる部屋や家のこと。そんな事故物件を転々としている著者が、実際に体験&取材した不思議な話をすべて間取り付きで紹介する。



『山形怪談』 黒木あるじ著



怪異の満ちる異境へようこそ
地元在住の怪談作家が山形の怪を徹底取材！
出羽国の埋もれた土俗怪談が令和に蘇る！
『変な家・変な家2』 雨穴著
不可解な間取りの真相とは!?
突如消えた元住人は一体何者?!



あなたは、この「11の間取り」の謎が解けますか？

筆者と設計士・栗原のコンビが不可解な間取りの謎に挑む。

『変な絵』 雨穴著

あなたも、何かがおかしい9枚の絵の「謎」が解けますか？

9枚の奇妙な絵に秘められた衝撃の真実とは!?

その謎が解けたとき、すべての事件が一つに繋がる！

『踏切の幽霊』 高野和明著



踏切では、列車の非常停止が相次いでいた。雑誌記者の松田は、読者からの投稿をもとに心霊ネタの取材に乗り出すが、やがて彼の調査は幽霊事件にまつわる思わぬ真実に辿り着く。1994年冬、東京・下北沢で起こった怪異の全貌を描き、読む者に^{おの}慄くような感動をもたらす幽霊小説。

※ぜひ、図書館へ

